

88. 最新の「福祉・介護人材確保対策」から考えるー3

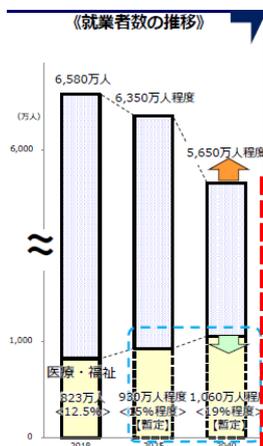
2019年11月24日

前々回のエッセイから、令和元年9月18日づけで掲載された厚生労働省福祉人材確保対策室「福祉・介護人材確保対策について」を基にしていると考えています。

1. P2 2040年までの人口構造の変化・・・生産年齢人口の激減
2. P6 有効求人倍率と地域別の高齢化の状況・・・平均4,08倍、新潟3,17倍
3. P10 介護人材確保の目指す姿・・・「まんじゅう型」から「富士山型」へ
4. P16～36 多様な人材の確保・育成・・・潜在的人材の掘り起こし
5. P38～41 生産性の向上・・・新技術への対応、業務改善の手引き
6. P43～62 メディアによる積極的情報発信・・・魅力の向上
7. P64～78 外国人材の受け入れ・・・新たな介護の担い手

今回は、国と新潟県の議事録などを参考にして、2020年、2025年の介護人材確保の「需要と供給」に対する計画が順調に進んでいない事を皆様に紹介しました。

第145回社会保障審議会介護給付費分科会議事録の鈴木委員の『今後、労働力人口はさらに4割減少するわけですから、現実的に考えると、今後、幾ら国内のいろいろな人材を活用しても、足りるということは考えにくいと思う』というのが本音であり、国の計画や統計に関しての数字に対して信用が持てない中で、事業者としてどのように船を航海していくかがトップの大きな責任となります。



左図はp4 就業者数の推移です。

2018年から2025年 就業者数 ▲230万人の減
 医療・福祉 +107万人需要計画

2018年から2040年 就業者数 ▲930万人の減
 医療・福祉 +237万人需要計画

鈴木委員の「今後、幾ら国内のいろいろな人材を活用しても、足りるということは考えにくいと思う」は、十分に納得できる数字です。

2025年、2040年、全産業での人材不足、人の取り合いです。

右図はp6

都道府県別有効求人倍率です。

介護の平均は、4.08

東京都は、7.05

新潟県は、3.17

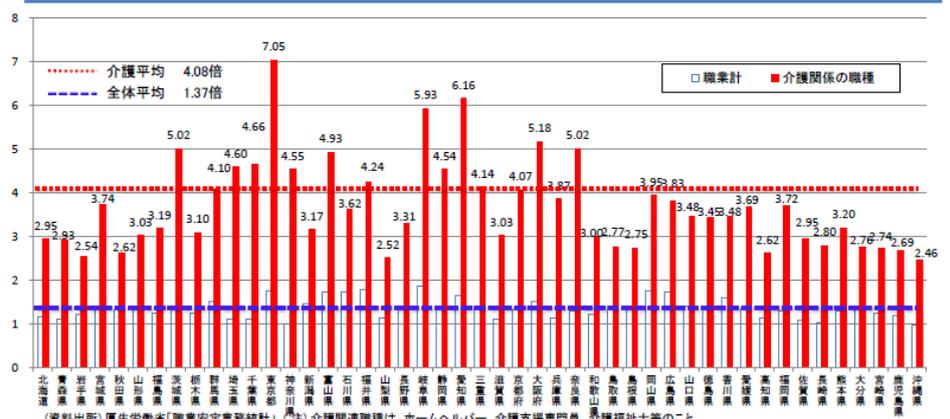
地域差が顕著です。

一般との差 = 魅力がない!

給料上げても・・・魅力ない業界?

都道府県別有効求人倍率(令和元年6月)と地域別の高齢化の状況

○ 介護分野の有効求人倍率は、地域ごとに大きな差異があり、地域によって高齢化の状況等も異なる。



現実、「人がいない」ことは、皆様には十分に承知されている事です。
何度も何度もシツコイほど書かせていただいています。
谷さん、もう十分だよ。

本当でしょうか？本当に「人がいない」ことが腹に座ったのでしょうか。

日本国は、これからの半世紀以上は「人がいない」という未曾有の危機に陥ります。
誰もが経験した事がないので、なんとなく過ごしている、時間が過ぎているのが現実です。
人口が減り始めたのは、まだまだ序の口です。始まったばかりなのです。

国の福祉人材確保対策室長が、「平成 22 年度～27 年度の過去 5 年間で約 40 万人（年間 8 万）伸びている。介護人材は国内人材で賄う」と答弁している平成 29 年（2017 年）には、その半分以上の確保となり、翌年の平成 30 年（2018 年）には新たな労働力（労働力を受け付けないとしていた）として外国人材を入れる政策に突然舵を切り替えています。

太平洋戦争は、生産力、原油等の数字を無視して戦争に突入して 1 億総玉砕という言葉がありました。そして、昭和の終わり頃から、人口という国力の数字が下がってくる事をおざなりにしてきた結果、2016 年安倍総理の「1 億総活躍」という言葉が出てきました。何か似たような言葉で、歴史は繰り返すではないでしょうか。怖いですね。

もう人口減は止まりません。今後の日本の在り方は、話が大きいので政治家の先生にお任せします。

ただ、今現在、事業をしている経営者管理者は、これからの数十年をどう自分の船を無事、大波に乗せていくかを考えなければならない岐路にきています。

コンビニ業界は、24 時間 365 日のビジネスモデルの見直しに踏み込まざるを得ない状態になっています。銀行等のサービス業も合併などを進め店舗数を減らしていくでしょう。それぞれの産業で「人がいない」事での大きな変化で対応していかなければなりません。

さて、介護業界はどうなっていくかです。

やるべき事をやれば、船は大波に耐えることができる。私はそう信じています。

なんだ、それ???

やるべき事ができない、しない船は、残念ながら沈没していくでしょう。ということです。

大波は必ず、何度も何度もやってきます。
まずは、その大波に耐えうる船を作ることであり、船に乗っている船員を鍛えることです。
船員を鍛えていくことで、沈没しかけた船からの人を救うことができます。

まず、自分の船を鍛えることです。
必ず、その船に人が集まってきます。それが介護の社会のような気がします。
次回から、そのことについて考えていきます。